

「新しい成人歯科健診」が日歯から提示される！

～日本歯科医師会・8020財団と行歯会との打合せ会議報告～

2009年3月5日、この日は日本の歯科界にとって新たに記念すべき日となった。

2006年6月に「日本国民に最高水準の歯科保健(口腔環境)を提供するために」と題し、日本歯科医師会、8020財団と行歯会が意見交換会の場を持ち、それぞれが熱い思いをぶつけあったことを記憶している会員も多いと思われる。行政と歯科医師会が協働で新たな歯科保健医療のモデルに取り組んで行こう！と連携を誓い合い、行歯会も組織率アップに取り組んできたところである。



あれから3年、今度は日歯からのお膳立てでこの打合せ会が開催された。会場も日本歯科医師会の立派な会議室に通されやや緊張したが、しかし雰囲気はいたってフレンドリーで、会議の大半は新しい成人歯科健診に関する意見交換で熱いラブコールをいただいた。まさに日本の歯科界の夜明け！池主常務のお言葉を借りると、手漕ぎのボートから帆を張るに至った船が大海に船出しようとしているようだ。追風をうけて順調に航海できるか、大波に打ち砕かれるか、ここからが正念場のようなのである。

日時：平成21年3月5日(木)午後4時半～6時

会場：日本歯科医師会館 10階会議室

出席者：日歯；大久保会長、箱崎副会長、池主常務、深井地域保健委員長

8020推進財団；新井専務、事務局(小林事務局長、小川)

行歯会；北原副会長、中村理事、高澤理事、安藤事務局長

協議：①行歯会、日歯(地域保健)、8020推進財団との連携について

②住民参加の新8020運動の展開について

③日歯モデル事業と行歯会との連携について

④その他

要旨：

まずは、日歯の大久保会長からの挨拶では、健康日本21の歯科分野の中間目標を達成できたのは、ヘルスの場におけるポピュレーションアプローチの成果であり、思ったよりも早いスピードで歯が残っている。今後は8020運動だけでなく

ハイリスクアプローチが課題である、との激励と今後の課題にむけて協力要請があった。財団の新井専務からは、住民参加の新8020運動と、今回の会議の大半を占めた新しい成人歯科健診に財団としても力を入れているとの報告があった。

そして深井地域保健委員長から日歯の新しい成人歯科健診のモデル事業について報告があり、行歯会との連携について具体的な意見交換を行った。主な内容は次のとおりである。

現在の歯周疾患検診や成人歯科健診は、どの自治体でも受診率が低く、職域における健診も同様である。これはプログラム自体に問題があり、受診者の視点に立った、受けて楽しい健診にする必要がある。今までの疾病発見型から保健指導型にシフトしていく。新しい健診は、質問紙を用いた問診の標準化を図り、必要に応じて唾液検査等行う。効果的に保健指導が行えるための質問紙となっており、評価し階層化していく。フォローアップの保健指導は地域の診療所や職域で担う。歯科医師の役割は従来の口を診て疾病発見をするのではなく、相談や支援することになる。

日歯では過去3年間全国11箇所モデル事業を行った。3月中には「標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導マニュアル」をホームページ上からダウンロードできるようにし、広く周知していく。21年度は日歯もちろん周知を図るが、行政からの周知もお願いしたいので、行歯会のネットワークでこの提案を広めてほしいとの要請があった。日歯としては、23年度の制度改正につなげていく意向なので、この取り組みの普及検討は急務であると考えられる。受診者の満足度、質問紙だけで健診と言えるのか？地域の診療所が受けてくれるのか？節目ははずせるのか？等々当日も活発な意見交換がなされたが、具体的な内容については、今後の行歯会だよりに詳しい内容を寄稿していただく予定なのでそれを参照に会員間でもメーリングリスト上で活発な意見交換をお願いしたい。

その他、中村理事から日歯からの政策提言についての提案があり、終始和やかな雰囲気です。今後ますますの三者の連携、協働を固く誓いあい予定の時間を少々オーバーして閉会された。（記：高澤）

その他、中村理事から日歯からの政策提言についての提案があり、終始和やかな雰囲気です。今後ますますの三者の連携、協働を固く誓いあい予定の時間を少々オーバーして閉会された。（記：高澤）

* 事業紹介 *

高知市の介護予防の取り組み

～かみかみ百歳体操で口を元気に～

高知市保健所健康づくり課
歯科医師 上田 佳奈

行歯会の皆さん、「行歯会だより」では、はじめてお目にかかります。

高知市は四国南部の中央に位置し、人口341,177人、高齢化率22.0%、合計特殊出生率1.31（平成20年4月1日現在）の地域の中核都市です。平成10年に中核市に移行し、保健所の設置を契機に、私歯科医師1名と歯科衛生士1名の歯科専門職2名が初めて正職員で配置されまし

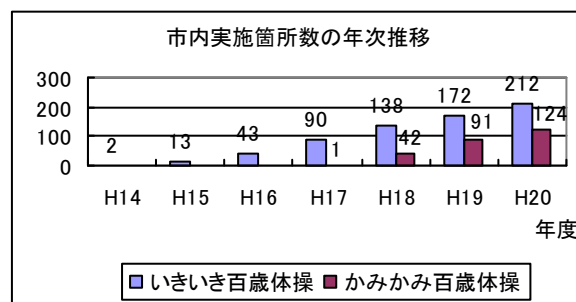


「かみかみ百歳体操」を実施している宅老所にて
介護予防の視察にこられた先生方と一緒に

た。保健所は3つの課からなり、私の配属されている健康づくり課は、感染症を除いた対人保健部門を管轄し、市役所の本課機能、保健所機能、市町村保健センター機能を一体的に持っています。保健師は地区を持ち、事業も担当します。課内は母子健康係、成人健康係、こころの健康係の3つからなり、職種は事務職、医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士の多職種 57 名の正職員と、健診や介護予防などの事業予算で雇用の臨時職員が勤務する大所帯です。市役所の組織の中にあるため、介護保険部門や福祉部門、国保部門などと連携し、各課と役割分担しながら事業を実施しています。

高知市は、後期高齢者や独居高齢者の増加に加え、介護保険の新規認定者のなかで要支援・要介護1の対象者の占める割合が極めて高い実態から、平成14年の高齢者保健福祉計画見直しを契機に健康寿命の延伸・「介護予防の推進」を重点施策として運動による介護予防の普及・啓発を行ってきました。関係各課の役割分担の中で健康づくり課が介護予防の普及啓発、市民の活動支援に関する業務を担っています。その中心となるのが平成14年に開発した負荷を調節できるおもりを手足につけて運動を行う「いきいき百歳体操」で、保健所医師と理学療法士が中心に開発したものです。最低週1回、住民主体で3ヶ月間継続実施することが条件で、住民が実施する場所の確保と人を集めてくれば保健師が中心に支援を行います。保健所で養成した「いきいき百歳体操インストラクター」や保健師が介護予防についての健康教育と体操の指導に4回限定で出向き、その後は開始3ヶ月後、6ヶ月後、12ヶ月後のフォローを行い、年1回の大交流大会を開催し継続支援をしています。住民活動の支援としては市民ボランティア「いきいき百歳体操サポーター」の育成とフォローアップ、お世話役さん交流会などを行っています。平成14年度に市内2箇所で始まった「いきいき百歳体操」は平成17年度末には市内90箇所に広がり、地域の宅老所や公民館、介護保険事

業所の地域交流スペースや商店街の空き地や神社など、様々な場所で実施されるようになりました。平成18年度の地域支援事業の創設を契機に、高知市でも運動器の機能向上だけでなく介護予防の意識づくりに重点をおき、口腔機能向上にも取り組むこととし、平成17年9月に「かみかみ百歳体操」を考案しました。この体操は東京都老人保健研究所 続介護予防マニュアルを参考に「いきいき百歳体操」と合わせて実施することを前提にした口の周りの体操です。集団で取り組みやすい「口の体操」に焦点をあて、それをきっかけに歯科受診や口腔清掃を意識づけていくことにしました。平成17年度中に地域の公民館1箇所でかみかみ百歳体操の効果を検証し、平成18年度から地域での普及、啓発に取り組んでいます。いきいき百歳体操の普及方法を参考に、お手本ビデオやパンフレットを作成し、いきいき百歳体操を6ヶ月以上実施している場所へ打診し、実施する意向のあるところに歯科衛生士が口腔機能向上の必要性についての健康教育とかみかみ百歳体操の指導に3回出向きます。その後3ヶ月後、6ヶ月後、12ヶ月後に体操の確認と口腔機能評価を行います。市民を支援する人材として、乳幼児健診などの歯科保健事業に携わっている地域歯科衛生士を「かみかみ百歳体操インストラクター」として養成、あわせて1年単位で臨時雇用の常勤歯科衛生士1名を地域支援事業の予算で確保し、地域での活動を行っています。平成21年2月末には市内124箇所、1800名余りの方がかみかみ百歳体操に継続して取り組んでおり、市内212箇所で開催されている いきいき百歳体操の実施箇所数を追いかけて増え続けています。県内の他11市町村でも、かみかみ百歳体操が取り組まれています（平成20年9月現在）。



高知市の介護予防事業はポピュレーション施策として取り組んでおり、市内参加者の8割以上が女性で、介護認定未申請の方が約9割以上を占めていますが、介護認定を受けている方や虚弱な方が一緒に参加できるのが特徴です。かみかみ百歳体操の6ヶ月以上継続者の口腔機能評価では、開口量が増えた、反復嚥下テストが3回以下の方がほとんどいなくなった、自覚的健康感が「よい」と答える方が増えたなどの結果がでています。自覚的に「飲み込みやすくなった」「食事がおいしくなった」などの声も聞かれます。

また、舌の清掃や夕食後の口腔の清潔、定期的な歯科受診の啓発のため、かみかみ百歳体操開始半年後ごろに歯科衛生士が健康講座に出向いています。平成21年2月末までにこの健康講座の開催は66箇所となりました。かみかみ百歳体操の実施支援の流れに組み込みながら、多くの場所で口腔ケアを働きかける予定です。平成21年3月末に策定される高知市高齢者保健福祉計画では介護予防の市民活動支援として、かみかみ百歳体操の実施箇所を3年後には200箇所にすることを目標にしています。運動器の機能向上に合わせて、地域に根づいていくことを期待しています。

また、介護保険事業所の通所系サービスの中でも、かみかみ百歳体操を活用した口腔機能向上の取り組みができるように、事業所むけの研修会を平成18・19年度に実施し、平成20年9月現在、市内43事業所、県下51事業所でこの体操を活用した取り組みがされています。平成21年度も開催し、地域と通所事業所との連携がとれた介護予防の取り組みをめざします。



高知市の歯科保健活動は、母子保健や成人保健、障害児者支援など様々な分野で、歯科単独で実施するのではなく、保健活動の中で一体的に歯科保健が組み込まれることを意識して実施しています。介護予防では運動を実施している場所で口腔に関しても取り組むことで、歯科保健意識の低い層にも働きかけることができています。母子保健においても、1歳10ヶ月児健診（1歳6ヶ月児健診を1歳10ヶ月で実施）や3歳児健診だけでなく、フォロー健診、育児相談、マタニティの教室などで他職種と一緒に事業を実施し、歯科専門職の視点からの育児支援を投げかけています。歯科保健計画の策定はしていませんが、平成21年3月末に策定された高齢者保健福祉計画、障害者計画、食育推進計画などの中には歯科保健に関する内容も少しですが組み込まれています。これらの計画は近々、高知市ホームページに掲載される予定ですので、興味のある方はぜひご覧ください。

最後になりましたが、平成21年11月21日(土)には全国歯科保健大会が高知市で開催されます。『健口維新』として高知から、これからの歯科保健医療を発信したいと考えています。前日の歯科保健研修会では、高知市の取り組みもご紹介させていただく予定です。高知は海の幸・山の幸、地酒も豊富で堪能していただけたと思います。たくさんのご参加をお待ちしています。

作成したビデオを会場に流しながら、約600人が一緒に、かみかみ百歳体操を行いました！
平成20年度の大交流大会は、980人が参加。
年々参加者は増え続けています！

いきいき百歳大交流大会（H18実施分）での「かみかみ百歳体操」の様子

医療連携で歯科のすばらしさを伝える

～歯科医師が参加するNST回診～

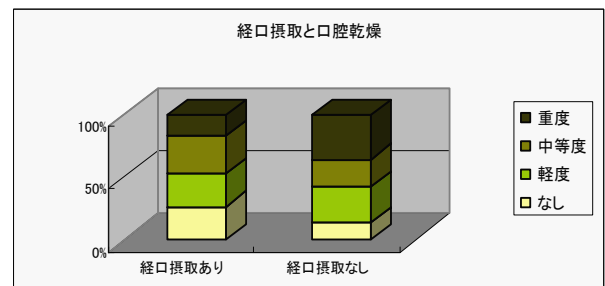
岩手県奥州市国保衣川歯科診療所
佐々木勝忠

岩手県奥州市歯科医師会では、平成 18 年 12 月より地域急性期病院である岩手県立胆沢病院（病床数 351 床）の NST 回診に歯科医師を参加させています。歯科医師が交代で NST 回診に参加した際の回診情報は、メールを使い回診仲間の歯科医師が情報を共有しています。歯科医師が NST 回診に参加することにより、医師からは『実際に歯科医師に見てもらうことによって違う世界を教えられた』、看護師からは『口腔ケアの必要性を再認識した、気管挿管患者に自信を持ってあたる』、栄養士からは『口腔の状態がどうなっているかを知ることが栄養療法の面からも重要で、口腔内状態や義歯の状態をみてもらう事で、栄養状態の改善につながった』などの感想が得られました。歯科医師が急性期病院で活動するには、医学知識的にも人間関係的にも未知の世界に飛び込んでいかなければならないような気持ちの障壁があります。しかし、NST 回診参加がきっかけで病院内に入ってみると、病院内のスタッフの心温まる歓迎と口腔内への関心の高まりで、病院スタッフの一員としての自覚が生じ、さらに医学的知識の吸収の必要性に駆られます。確かに医学的知識の不足はあり、走りながら勉強をするような感であります。医科・歯科の障壁は自分たちが作っている気持ちの障壁であるような気がしています。医科歯科の連携にあたって歯科医師は、口腔機能医としての知識を持たなければならぬと考えます。摂食・嚥下障害や神経学の知識、食べる機能とともに話す機能も口腔機能であり、発達障害、構音障害、失語症などの知識も必要になってくるのではないのでしょうか。急性期病院では、看護師さんに口腔ケアの指導を行わなければなりません。写真のような気管挿管をしている患者さんの口腔ケアができる技量も持ち合わせな

ければなりません。岩手県内では 4 つの地区歯科医師会が県立病院 NST に関っています。



平成 19 年 7 月に口腔ケアに介助が必要な入院患者（44 名、平均年齢 77.6 歳）の口腔内診査を行いました。口腔乾燥については、経口摂取していない者で重度口腔乾燥割合が高く、経口摂取しな



経口摂取と舌運動の関係

舌運動	
運動良好	運動不良
32	11

舌運動機能が良好な者と不良な者の経口摂取状況を 1ヶ月前と 3ヶ月前にさかのぼって調査し、オッズ比を算出した

経口摂取	オッズ比
1ヶ月前からなし	3.1
3ヶ月前からなし	3.6

経口摂取と咀嚼運動の関係

咀嚼	
咀嚼運動可能	咀嚼運動不可能
34	9

咀嚼運動化可能者と不可能者の経口摂取状況を 1ヶ月前と 3ヶ月前にさかのぼって調査し、オッズ比を算出した

経口摂取	オッズ比
1ヶ月前からなし	9.4
3ヶ月前からなし	12.8

いことによる舌運動機能低下と咀嚼運動低下がみられました。また、義歯が必要と思われる患者さんは 34 人で、50%が義歯を使用しており、16%が病院に義歯があっても使用しておりませんでした。病院に義歯がある患者さんの 1/4 弱が緊急に義歯の治療を必要としておりました。

平成 20 年 7 月まで回診した患者さん約 200 人分の分析を行い東北静脈経腸栄養研究会で発表

しました。(いつかの機会にご報告できれば・・・)
口腔状態の悪化によって低栄養をきたしている高齢者がおられます。私たちは歯科治療後、栄

養など全身的な視点に立って経過を診ないために歯科のすばらしさを見逃しているかもしれません。

理事の独り言 (その40)

栃木県における医科・歯科連携推進のお話

栃木県保健福祉部健康増進課主幹 青山 旬
(栃木県立衛生福祉大学校歯科技術学部長)



栃木県は、歯科保健の指標、たとえば3歳児のう蝕有病者率(28.5%、全国28位:H19)や12歳児のDMFT(2.0、全国33位:H19)は、全国の中でやや後ろの値を示すものが多く、なかなか歯科保健の優先順位が上がらない状況です。そこで、優先順位の高い課題と関連づけができるかどうか考えていたとき、平成17年の年齢調整死亡率のデータが一昨年の4月に厚生労働省統計情報部から公表されました(都道府県別にみた死亡の状況「平成17年都道府県別年齢調整死亡率の概況」)。

栃木県の公衆衛生の課題で、最も優先順位の高いと言っているものとして、脳血管疾患の死亡状況がありました。そこで、年齢調整死亡率に注目したわけですが、数値は下がっているものの都道府県順位は、男性45位、女性47位と、ほぼ全国最下位といえる状況でした。どの都道府県でも、がん、心疾患に続いて第3位である点は、変わらないのですが。しかし、第4位の肺炎のデータに注目しました。男性46位、女性47位だったからです。そこでふと疑問が浮かびました。脳血管疾患の人は、嚥下障害が出ることはよく知られて事

実です。それなら肺炎を引き起こしたりしないのだろうか?という疑問です(ということは、もっと脳血管疾患死亡が多いのかもしれませんが)。

人口動態統計で公表される死因は、原死因が用いられます。死亡診断書には、死亡の直接原因だけでなく、その原因となった一連の病態が記載されており、原死因とは、死亡に関係した一連の死因の元になった死因となります。つまり、脳血管疾患で死亡した場合、その中に、肺炎を併発しものが混ざっている可能性があります。こんなことを考えていたら、健康増進課のT医師が出張から帰ってきたので、そのことを話そうとしたら、なんと、T医師も同じ様なことを考えていたのです。調べる方法を考え、保健所にある情報をK所長に確認してもらい、1保健所管内の1年間の死亡について、脳血管疾患による死亡の肺炎併発状況が判りました。3人に1人が併発という結果でした。肺炎を除く呼吸器疾患でも併発率はその半分でした。

この結果を平成19年度の栃木県公衆衛生学会で発表し、予算獲得にT医師が知恵を絞って健康増進課一丸で望みましたが、残念ながら予算化は

できませんでした。しかしその後、A 保健福祉部長（事務職）がその結果に着目し、部内の予算を使ってリーフレットなどの200万円の予算資料を作るよう健康増進課の歯科保健担当事務職 O さんに伝え、日本公衆衛生学会で青山、T 医師の不在中に予算案ができあがっていました。

平成 20 年に県医師会、県歯科医師会、県歯科衛生士会、県看護協会などから委員を出してもらい、歯科医師会が中心となって肺炎を題材とした口腔衛生と全身疾患の関係のリーフレット作成を行いました。なんと、医科歯科連携が糖尿病ではなく、県の課題に関係する誤嚥性肺炎が目玉になりました。今年の2月に完成して、看護師と介護職を中心に配られることになりました。

今回、歯科保健関係の小さな事業が単年度で行われたのですが、それには、公衆衛生に携わる医師、歯科医師だけではなく、医師会や歯科医師会、歯科衛生士会、また、県庁内でも事務職である A 部長や歯科保健担当 O さんの力量が高かったことが重要だったと感じました。公衆衛生は人だと言われることもありますが、専門職だけではやはり限界があるでしょう。しかしこの様に、人に恵まれると、少しだけですが事業が進むことがわかりました。この少しの変化は、将来、栃木県の脳血管疾患死亡を少しだけ減少することを期待して、予算の厳しい中、少しだけがんばっていきたいと思います。

ちなみに、死因の分析については、平成 20 年日本公衆衛生学会（福岡）で発表しました(青山ら、死亡小票を用いた脳血管疾患死亡の記述及び分析疫学的研究. 抄録集 p225)。委員会で医師会からの委員が、リーフレットのみならずハンドブックが必要という意見を出して頂き、今年の 8020 運動推進特別事業の計画になりました。また学校でも、歯科衛生士の養成にこのことを盛り込みましたし、深井稔博先生の論文（K Fukai, T Takiguchi, Y Ando, *et al.* Mortality rates of community-residing adults with and without dentures. *Geriatrics & Gerontology International*, 8(3) ; 152 – 159: 2008) から、高齢女性の場合に歯が少ない場合には義歯を使用していると寿命が長いという結果を歯科技工士教育にも生かして行くことができます。

ご存知ですか?
口腔衛生と全身疾患の関係
口の健康は全身の健康へのパスポート

～介護に携わる担当者等を対象としている資料です。～

？ 口腔の役割って?
●咀嚼機能
●摂食・嚥下機能
●発音機能
などが、心身ともに自立した生活を送るために欠かせない機能です。

？ 口腔衛生と肺炎の関係は?
肺炎は、細菌やウイルス感染など様々な原因で肺に炎症が起きている状態の総称です。
口腔衛生状況が悪化すると誤嚥性肺炎を発生しやすいのです。
★脳血管疾患の発症リスクは、誤嚥性肺炎発症の約2倍に高まるといわれています。

？ 口腔機能が低下するとうなる?
口腔機能が低下すると体力や免疫力の低下につながり、全体的な健康状態の悪化や感染症、誤嚥性肺炎、脳血管疾患（脳卒中）などにかかりやすくなり、命にも関わります。

？ 誤嚥性肺炎って?
誤嚥性肺炎は、「嚥下機能」が弱くなり、口腔内の細菌が気管に入ってしまう「誤嚥」によっておこる肺炎です。「誤嚥」には2種類あります。
①嚥下困難（「むせ」がある）：
食事中などに食べ物とともに細菌が気管に入り込む
②不随意嚥下（「むせ」がない）：
睡眠中などの気づかないうちに細菌が気管に入り込む

？ 誤嚥性肺炎の予防方法は?
口腔ケアを行うことが重要で予防対策です。食後の姿勢や寝る姿勢の保持も大切です。

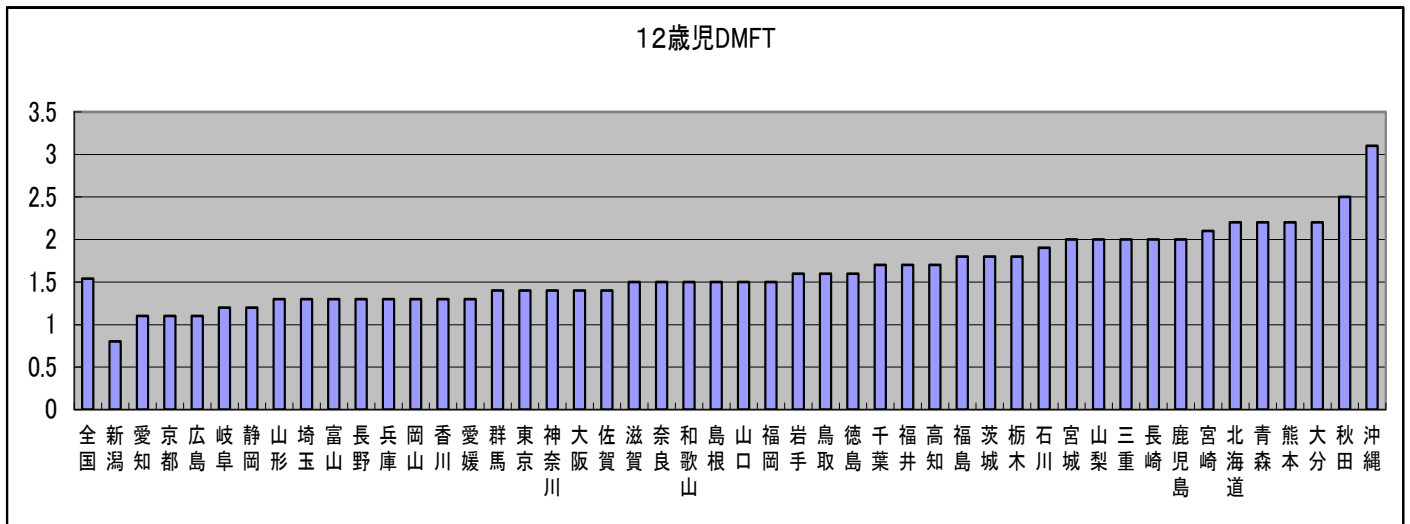
コラム
栃木県は、脳血管疾患（脳卒中）による死亡者が全国でもワーストレベルに位置しています。
県内の調査によると、平成17年に県立健康福祉センター管内の脳血管疾患により死亡した人のうち全体の36.8%の方が肺炎を併発したことによってなくなっていました。このことから、脳卒中を患った人に対して、口腔ケアなどの対策を実施し、肺炎の発症を減少させれば、脳血管疾患による死亡者数を減少させることに繋げることができると考えられます。
青山医師が平成17年の県立健康福祉センター管内には、誤嚥性肺炎の上昇傾向を報告している研究があります。

速報

平成 20 年度学校保健統計調査・都道府県表が発表されました。

12 歳児の DMFT は新潟県が0.8 と最も少なく、9 年連続日本一となりました。

詳細：http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/1256666.htm



◆国立保健医療科学院の歯科保健研修(歯科専門職向け)のご案内◆

概要：行政機関等に勤務する歯科専門職(歯科医師、歯科衛生士)の資質向上を図る研修

期間：平成 21 年 8 月 24 日(月)～8 月 28 日(金)5日間(集合研修)

※ 前後に遠隔研修を実施

平成 21 年 7 月 21 日(火)～8 月 21 日(金)、8 月 31 日(月)～9 月 18 日(金)

受付：平成 21 年 4 月 1 日(水)～5 月 29 日(金)

詳細：http://www.niph.go.jp/entrance/h21/course/short/short_chiki14.html

◆第27回地域歯科保健研究会(通称:夏ゼミ)のご案内◆

期日：平成21年8月1日(土)・2日(日)

場所：東京歯科大学千葉校舎(千葉市美浜区真砂1-2-2)

対象：地域歯科保健医療に携わる者

HP：<http://www.geocities.jp/natuzemi2009/index.html>

テーマ等詳細につきましては次号に掲載します！お楽しみに！！